

# 住民主体の助け合い活動創出に向けた協議体の体制整備 ～東京都北区「志茂ジェネ協議会」の事例から～

綿密な戦略構築に基づくマネジメントと継続的な会議運営を通じ、子育て世代と中高年者が世代を超えて助け合える多世代型地域包括ケアシステムの構築に取り組む事例として、東京都北区志茂地区の協議体を紹介します。

## 住民主体の助け合い活動創出に向けた協議体の体制整備 ～東京都北区「志茂ジェネ協議会」の事例から～

村山幸子※1・村井義子※2・若松由香※3・酒井史子※4

※1 東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム（協議体構成員）、※2 みずべの苑 高齢者あんしんセンター（第二層コーディネーター）、※3 北区社会福祉協議会（第一層コーディネーター）、※4 東京都北区役所 健康福祉部 長寿支援課（生活支援体制整備事業担当）

東京都北区志茂地区では、**子育て世代と中高年者が世代を超えて助け合える多世代型地域包括ケアシステムの構築**に取り組んでいる。

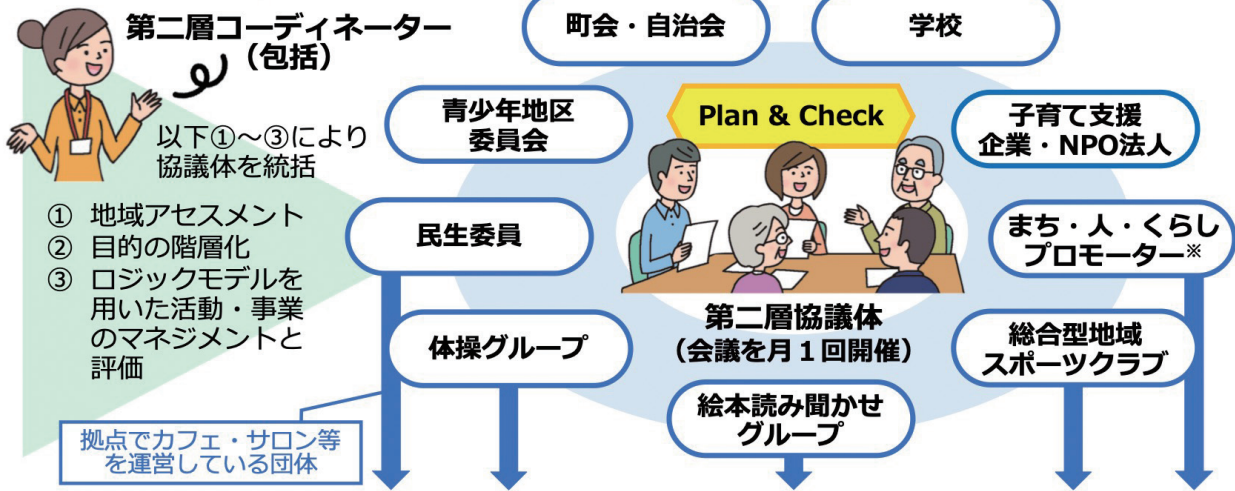
地域包括支援センター所属の「見守り／生活支援コーディネーター」は、自治体および第一層コーディネーター（社協）による後方支援のもと、第二層協議体（通称：志茂ジェネ協議会）を運営している。協議体の主な取り組みは

①多世代交流・助け合いの拠点づくり、②助け合いの基盤となる住民同士のつながり構築に向けた「多世代あいさつ運動」の実装である。

本発表では、コーディネーターの綿密な戦略構築に基づくマネジメントと、柔軟な体制からなる継続的な会議運営を通じ、住民主体の助け合い活動創出に取り組む事例として、志茂ジェネ協議会を紹介する。

### 後方支援

- 自治体：地域アセスメントのためのデータ提供、アドバイス等
- 第一層コーディネーター（社協）：戦略構築のサポート等



### Do & Action



▲ 建物外観

### 北社協 志茂地区小地域活動拠点（愛称：しもぞうハウス）

- 協議体に参画する住民の協力により、空き家を活用した多世代交流・助け合いの拠点を2018年にオープン。
- **第二層協議体を通じて「多世代共生」「互助」という理念を共有**した複数の地域活動団体がそれぞれの持ち味を活かしたプログラムを展開。
- 各団体は、自身の活動を通じて気付いた**課題や住民のニーズを第二層協議体に持ち帰り**、他団体に支援を求めたり、団体間の連携を通じた解決策を検討することができる。



#### ◀ 活動の一例：カフェ はなみずき

まち・人・暮らしプロモーター\*がカフェを運営。月替わりのプログラムの他、ボタン付けや裾上げの手助けをする取り組み(ちょこっとお手伝い)を開始。  
※第二層協議体が独自に養成した住民ボランティア

